裁判員経験者との意見交換会を行いました

令和４年６月２１日、４名の裁判員等経験者にお越しいただき、裁判官、検察官、弁護士も交えて、意見や感想、気になったことなどを伺いました。

東京地裁では約２年４か月ぶりの開催となりましたが、参加者のご意見などから改めて気付かされることも多く、充実した意見交換会となりました。

●全体を通じて

司法は国民から遠く閉ざされているイメージで、裁判員制度も存在くらいしか知らなかったが、参加してみるとすごく良い経験だったので、周囲にも宣伝している。

裁判員制度の広報に関して、もう少し制度自体の知名度があれば職場との調整がしやすいのにと思った。

最初は犯人のことを許せない思いだったが、審理や評議の中で、自分とは違う考えに触れ、自分の考え方や見方では済まない面があるのだと知った。

細かいことは家族にも話せず、自分の中だけでもやもやすることがあり、事件終了後３日間くらいは涙が出たりしてつらかったが、貴重な経験だった。

●評議に参加して

裁判官が、積極的に話さない人も含めて全体から意見が出るようにし、よい議論ができた。難しい言葉には、わかりやすく説明があったので、発言しやすかった。

自分の感覚、考えと量刑グラフの傾向に差があり、その傾向に合わせていかなければいけないのかと思った。

量刑の決め方に関し、あまりにも機械的に決められているとの印象を持った。

タイムテーブルが決まっており、非常に緊張感をもって時間内に議論を終えることができた。

●審理に参加して

外国人被告人の通訳の際に、タイムラグがあり、ニュアンスや雰囲気などが分かりづらく、同時通訳であればいいのにと思った。

法廷での審理は分かりやすかった。

外国人が被告人であったが、自分が逆の立場だったら、どれだけ心細いだろうなと思い、そのような被告人のケアも必要だと思った。

証人尋問の前にメモの取り方を教えてもらえればよかった。初日、緊張している中で被害者尋問があり、その後の審理の中でもう一度被害者の話を聞きたいと思うことがあった。

裁判所ナビゲーター　さいたん

参加された皆さまから貴重なご意見やご感想をいただき、とてもありがたかったです。今後の運営に生かしていきたいと思います。

司会：高橋康明裁判官